

令和5年度 教育民生常任委員会 行政視察報告書

1. 視察期間

令和5年10月12日（木曜日）～10月13日（金曜日）

2. 視察場所・項目

① 静岡県三島市

・学校現場でのICTの取り組み

② 大阪府吹田市

・学校風土調査について

3. 参加委員

委員長 西川嘉純
委員 広瀬明子
委員 水野実
委員 橋爪雄輔

副委員長 中村理香子
委員 岡本善徳
委員 柳毅一郎

教育民生常任委員会 行政視察参考資料

■静岡県三島市

令和5年10月12日(木) 午前10時～午後12時

1. 市勢

人口	106,740人(令和5年3月31日現在)
世帯数	49,942世帯
面積	62.02km ²
予算額	424億8,000万円(令和5年度一般会計予算)
議員数	22人
市立幼稚園	10園(うち1園は休園中)
市立小学校	14校
市立中学校	7校

2. 視察事項

① 学校現場でのICTの取り組みについて

●概要

令和3年経産省の「未来の教室 学校BPR(学校の働き方改革)」の事業を、サイボウズ株式会社で受託し、実証事業を三島市の中学校で行った事がきっかけになっている。

実証事業を行う中、学校の状況を把握する必要があったが、新型コロナウイルスの関係で施設の中に入れなかった事もあり、先生の頭にGoProを付けて1日の行動を観察した。その結果、書類の多さ、県・国からの調査依頼等事務作業に費やす時間が多かったことが分かった。

「まずは教育委員会と学校現場との間で行われる業務の改善が必要」とサイボウズ株式会社からの提言があった。1週間後に意思決定をし、「学校の修繕依頼アプリ」の構築を開始し、校長会議で導入の承認を受け、教頭会議で使用説明を行い実証事業がスタートした。

●「Kintone(キントーン)を活用した校務のDXについて」

市内の公立小中学校の先生と教育委員会職員の全員にKintoneアカウントを配布し、ペーパーレス化と業務の省力化をはかる取組みです。

本格導入ではまず、年度初めの大きな業務負担である「家庭環境調査・保険調査票・各種問診票・タブレット使用同意書」のオンライン入力を手掛けています。従来は紙で提出し教

員が入力していましたが、今年からは保護者が PC やスマートフォンなどで記入・提出し、学校は Kintone 上で管理・利用するようになります。大幅な省力化に加え、情報セキュリティの強化・転記ミスの解消・検索性の向上など運用上のメリットも高まります。

(株式会社アイティエス：NEWS 新着情報より 抜粋)

<主な質疑応答>

○キントーン以外で使用しているクラウドサービスは何か？

⇒Microsoft の office365 Education A1 MetaMoji ClassRoom (授業支援)
e ライブラリアドバンス (学習支援) スズキ校務 (校務支援システム)
ミライム (グループウェア) LEBER (健康観察アプリ)

○保護者の利用者数は？

⇒95%の保護者が家庭環境調査票用のアプリを活用している。

入学時に紙での提供の希望を募るが、紙での希望者はいなかった。

使い方の関係でアプリを活用する事が出来なかった方は数名いた。

○アプリを作ることが出来るとあるが、どれ位で作れるのか？

⇒先生自身でアプリが作れるように(株)ITS が伴走支援している。

(アプリ伴走支援費用：約300万円 20時間/月 電話、窓口、ヘルプデスク)

○最終的に何時間残業時間の削減を考えているのか？また目標時間は？

⇒「働き方改革プラン」を教育委員会で作成し、その中で時間外労働は月45時間以内、年間360時間以内と目標を策定している。プランの改定会議で、教員の意見を聞いたところ、一番は子供と向き合う時間が欲しいと回答する先生が多かった。年1回のストレスチェックの中でストレスの要因は何かと聞くと、心理的な仕事の負担が多くその原因は事務的負担と保護者対応になっている。その中の事務的な負担を軽減する事が出来れば良い環境で働くことが出来、時間外労働の削減にもつながるのではと考えている。

*伴走支援を行っている、株式会社ITS の方から、実際に使っている入力画面等を見ながら入力方法や操作方法の説明をしていただいた。



■大阪府吹田市

令和5年10月13日(金) 午前9時30分～午後11時30分

1. 市勢

人口	382,154人(男:182,231人 女:199,923人)	} R5年6月30日現在
世帯数	183,665世帯	
面積	36.09km ²	
予算額	1,563億3,000万円(令和5年度一般会計予算)	
議員数	36人(定数36人)	
市立小学校	36校	
市立中学校	18校	

2. 視察事項

②学校風土調査について

●「いじめ予防推進事業」

今までの経験値だけでは対応が難しくなっている。科学的根拠に基づいたいじめについての研究を行っていた、公益社団法人子どもの発達科学研究所と連携していじめ予防事業に取り組むことになった。

小学校1年生から中学3年生まで、特別活動・道徳・総合の時間を使って年間3時間TRIPLE-CHANGEというプログラムを実践している。

いじめ予防事業では特に「傍観者」に対する教育を重視して行っている。いじめのエピソードの85%に傍観者が関与している。もし傍観者がいじめを止めようと動いたら、数秒以内に57%がいじめがそこでストップするという研究結果が出ている。

そこで、傍観者がいじめを止めようとする行動に出る事が出来れば、いじめの半分が数秒以内でいじめが止まるということで「行動する傍観者」を育てる必要が有るのではと考えアップスタンダー教育をととても大切だと考えTRIPLE-CHANGEプログラムを組むことにした。

TRIPLE-CHANGE プログラム

- ① いじめについて考えよう→正しい知識を得る
- ② いじめかもしれないことが起きたらどうするか→正しい行動をする
- ③ いじめが起きないクラスをつくらう→集団を変える

傍観者に対する教育の重視

- ・SOSの出し方教育
- ・シティズンシップ教育
- ・アップスタンダー教育

●「すいたGRE・ENスクールプロジェクト」

令和2年度から「公益社団法人子どもの発達科学研究所」と協力し、いじめについての理解を深め、いじめを予防するスキルを学べる「いじめ予防プログラム TRIPLE-CHANGE」や、いじめ被害と学校風土の実態を数値化して把握できる「学校風土いじめ調査」など、同研究所が提供するプログラムを全市的に採用しています。これらを活用して、本市全市立小・中学校に対し、いじめの未然防止に向けた独自の調査研究を行っています。（PR TIMES より抜粋）

●公益社団法人子どもの発達科学研究所による調査結果報告

今回の事業では、吹田市内の一部の小中学校を、今回の動画コンテンツを指導教材として使用した群（以下、実施群）と未使用の郡（以下、比較群）に分け、「学校風土いじめ調査」および「国際教員指導環境調査（TALIS）」の一部を計測し、動画コンテンツ使用の効果として、いじめ被害の数や、いじめが起こりやすい環境かどうか等に差異があるかをデータとして収集・分析しました。（PR TIMES より抜粋）

<主な質疑応答>

○「こころとからだの連絡帳ダイケン」の質問項目は小学校1年生から中学校3年生と全て一緒なのか？

⇒その年齢に合わせてひらがなに変換できるようになっている。

○不登校の子供も対応ができるのか？家で出来るのか？

⇒1人1台端末を付与しているので、家でも対応が出来るようになっている。

○人的配置について

⇒スクールロイヤーは1人いる。法律に強い方がいてくれるのは本当に助かる。いじめ対策委員会があり大きな会議を行っているが、その会議や大きな事案の場合は必ず入ってもらっている。管理職研修・校内研修にも来てもらっている。教育委員会を通して要請すれば教員の相談も聞いてもらっている。

スターターは小学校1年生に配置している。1学年に1人で、担任がいてスターターは授業や休み時間や体育の着替えの時間に担任が居ない時に補助で入る。教員免許がある人である。今は小学校2年生にも配置している。応募者が多く、待ち状態になっている。

いじめ対応支援員が、今は学校問題解決支援員と名称が変更になっている。支援員は元校長・生活指導者経験者が多い。教員や子供たちに声を掛けている。学校内の会議にも参加するので、現状何か問題が起きていないか等把握はしている。教育委員会の大きな会議にも出席するので、各学校で問題が起きていた場合はその時に意見を言う場がある。現在のスターターをやっている方は、学校風土調査等を体験している方なので抵抗なくできている。

○デイケンは全体を網羅していてNiCoLiはメンタルヘルス的な部分を中心になっているように感じたが両方を導入したのは何故か？

⇒デイケンは日々子供たちが今の体調面や心の状態を入力する。NiCoLiは子供の状態をもっと知りたい、もっと深く把握したい場合データ化したものが見ることが出来るので、両方を導入している。NiCoLiは入力に時間がかかるので、月に1度程度の回答になっている。

○土日はどうしているのか？またやりたくない子にはどの様に対応しているのか？

⇒土日でもできるようにはしている。中学校はマストにしていない。

